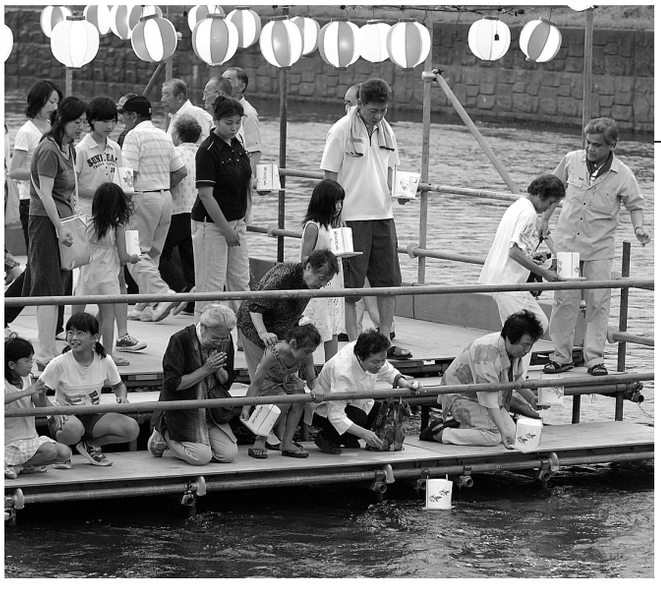
土の輝きが参加者の顔にも

明野図書館で光る泥だんご教室

人気の「光る泥だんご教室」を、7月28日、明野図書館で開催し、30組の親子が参加しました。

光る泥だんごの材料は、水と土だけのいたってシンプルなもの。図書館の職員から「もうひとつ必要なものは『根気』です」との説明を受け、作業に取りかかりました。会場にはどろどろの土に大はしゃぎの子どもたちや背中を丸めて夢中でだんごを磨くお父さんの姿が。暑さと長時間の作業で疲れが見えてきたころ、泥だんごが輝き出し、参加者の顔にも輝きが。「次回も必ず参加したい」と泥だんごのふしぎな魅力にまた多くの人がはまったようです。



震災の霊に手向(たむ)ける川面の灯り

今に継がれる灯ろう流し

下館の夏まつりのひとつ『灯ろう流し』が8月4日、勤行川大橋上流の湖畔で行われました。午後6時過ぎに堤防上の仮設の祭壇で、市内の各寺院の住職による読経ではじまり、家族連れや友達同士で連れ立って来たゆかた姿の娘さんたちが、湖畔に設けた流し場から次々と『万霊供養』と書かれた灯ろうを川に浮かべ、川面をほのかに映しながらゆっくりと流れていきました。

灯ろう流しは、関東大震災（大正12年9月1日）の犠牲者を供養するため、その翌年から金井町の有志がはじめたもので、今年で84年目を迎えました。

身近なもので楽しく遊ぶ

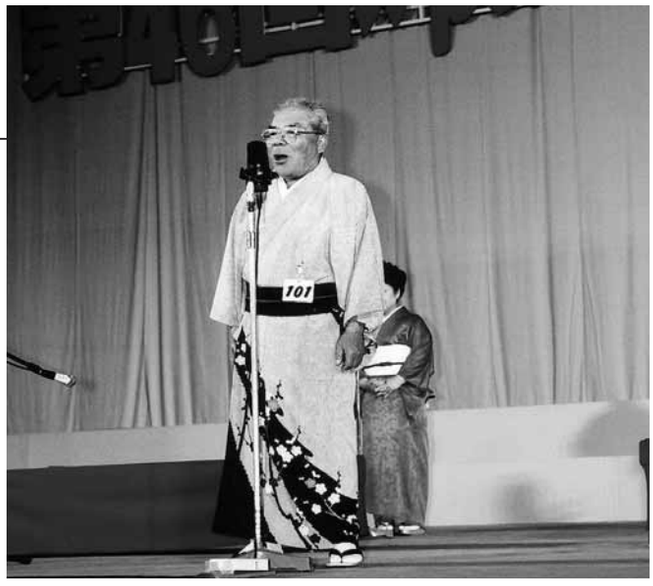
協和公民館でおもしろ理科教室

協和公民館では子どもたちの夏休みに合わせ、さまざまなイベントを開催しています。そのなかの一つ『おもしろ理科教室』を8月4日に開催し、8組の親子が参加しました。

「みなさんの家庭にある身近なもので楽しいおもちゃを作ってみましょう」リリー保育福祉専門学校の木村義明先生の指導のもと、参加者は、はがきと割りばしで作る簡単な飛行機やストローのたてぶえづくりなどに挑戦。子どもたちはハサミや定規などを巧みに使いこなし、見事な作品を作り上げていました。参加者は創造力を高める貴重な時間を過ごすことができました。

武道館で自慢の喉を披露

民謡民舞春季大会・金寿部門で仁平さんが優勝



5月18日から20日まで、日本武道館で「第46回郷土民謡民舞春季大会」が開催されました。この大会の金寿部門（80歳以上）で、仁平守恵さん（80歳・奥田）が奈良県の民謡「吉野筏流し唄」を披露し、見事優勝。また、仁平さんに民謡を教えている角田潮謡先生（67歳・奥田）が、最優秀指導者賞を受賞しました。

仁平さんは、「民謡を始めて30年。最初は、その音痴を直すのに15年はかかるとよく言われたものですが（笑）、優勝できてうれしいです。これからも、歌の意味することをうまく表現できるように歌っていきたいですね」と語ってくれました。

輪をくぐって無病息災

田中稲荷神社で夏越祭

8月7日の夜、田町の田中稲荷神社で、毎年恒例の夏越祭が開催され、半年間のけがれを払うという輪くぐりが行われました。これは、田中稲荷神社が火災で焼失し、再建された時から続く伝統行事で、今年で386回目を数えます。今年も500人を超える氏子や家族連れが参加。マコモで作った直径2・5メートルの大きな輪を8の字を描くように3回くぐり、家内安全や無病息災を祈願していました。

また、会場では、焼きそばやジュース、輪投げやヨーヨー釣りなどが用意され、子どもたちは夏の夜のひとときを楽しんでいました。

元気館でわっしょいわっしょい

あけの子育て広場でにぎやか夏祭り

あけの元気館の保健センターを拠点に活動している、「あけの子育て広場」の夏祭りが8月3日に開催されました。

明野子育て広場は、未就園児とお母さんたちの交流の場として旧明野町時代から続く事業です。この日は約130組の親子が参加し、手作りのおみこしや模擬店でのお買い物を楽しみました。指導者の斉藤裕子さんは「この広場は若いお母さんたちの交流の場としてすごい人気です。ここにいると少子化なんて言葉は忘れてしまいそう。いつまでも継続していきたい」と汗をぬぐいながら話してくれました。